

画図校区社会福祉協議会行動計画【概要版】

声かけて、幸せ湧く和く画図のまち♪～ふれあい・たすけあい・ささえあい（愛）～

ボランティア・担い手

福祉課題

- 校区内のボランティア養成後の活動の場がない
- 各種団体の会員の減少、役員のなり手不足
- 自治会への未加入世帯が増え、近隣住民の関係が希薄化

具体的な取り組み

- 若い世代の自治会活動への参画を推進、自治会の加入率向上の促進
- 次代を担う世代が参加できるような行事の周知（情報及び活動の場の提供）
- 近隣住民の支え合い（お互いが出来ることを出来るだけ）

高齢者

福祉課題

- 高齢者が抱える課題に対する理解不足、支援する側の高齢化
- 個人情報の把握、情報の共有が難しい
- 独居及び認知症の増加、孤独死、虐待の支援体制が十分でない

具体的な取り組み

- 隣保班を活用した見守りチームをつくる
- 「ふれあい・いきいきサロン」及び介護予防教室の継続
- 関係機関が開催するオレンジカフェへの協力

障がい者

福祉課題

- 個人情報の問題など障がいの種別の把握が難しく、地域でどのように支援してよいか分からぬ

具体的な取り組み

- 当事者や家族とのコミュニケーションの機会を増やす
- 障がい者相談支援センターの出張相談や出前講座を開催し、障がい者への理解を深める場を提供

災害・防災

福祉課題

- 災害時の支援、高齢者及び障がい者等の避難支援体制が十分でない
- 避難所の把握が出来ていない
- 災害時要援護者避難支援プランの多くに個人避難支援者がいない

具体的な取り組み

- 町内の協力体制の構築、町内毎のハザードマップの作成
- 関係機関に協力してもらいSNSを活用する
- 町内での災害時要援護登録者名簿を活用した防災訓練を実施

子ども・世代間交流

福祉課題

- 子育て世帯のつながりが希薄化
- 世代間交流が十分でない

具体的な取り組み

- 親子や高齢者と子どもがふれあうイベントの企画・実施
- 世代間交流の中から地域役員の担い手を発掘

画図校区社会福祉協議会行動計画

- ◎ボランティアの登録整理と活用（コーディネート）
- ◎近隣住民、隣保班での見守り活動
- ◎介護事業所との連携
- ◎命のバトンの整備
- ◎「ふれあい・いきいきサロン」の継続、充実
- ◎ジュニアヘルパーの活用
- ◎障がい者相談支援機関との連携及び研修会の企画、開催
- ◎熊本市社会福祉協議会自主避難サポート事業の実施
- ◎災害時要援護者避難支援制度への登録勧奨、個人避難支援者への協力依頼
- ◎他団体による交流事業で相互支援を図る